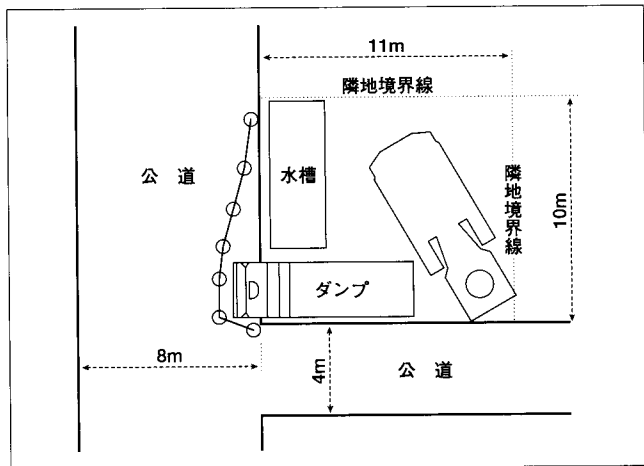


岩盤削孔工事施工事例の紹介

リーダ式ケーシング回転掘削工法（マルチドリル工法）による建替え新築基礎工事

1. 工事概要

敷地10m×11mでの建替え新築基礎工事である。地下水、隣接建築物の影響から既存地下壁と耐圧盤が撤去できないうえに、既存PC杭と同位置に新設の基礎杭を構築する必要があった。マルチドリル工法は機械がコンパクトであり、既存の既製コンクリートが存在しても場所打ち杭が施工できることで採用された。

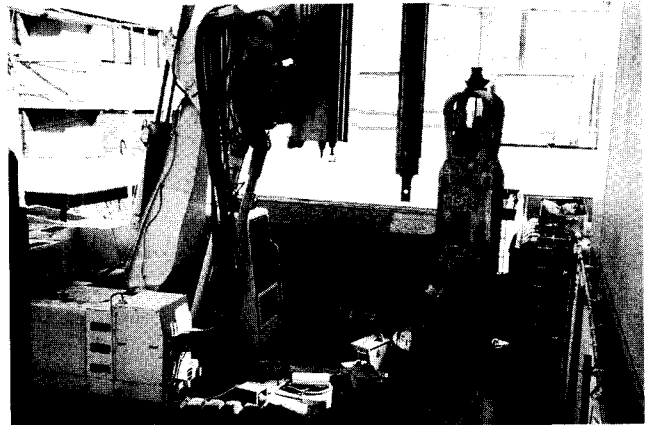


敷地と機械配置状況

- ①工事場所：東京都港区虎ノ門1-20-5
- ②企業者：財たばこ産業弘済会
- ③施工者：ジェイティ不動産(株)
- ④杭施工時期：平成11年8月22日～9月19日
- ⑤工事内容：地下既存耐圧盤をオールケーシング工法とカッタービットを併用し切削撤去。その後、ケーシングチューブを続けて押し込むことにより既製コンクリート杭を撤去し、

場所打ち杭を施工した。敷地内には、最低限必要な機材を設置しケーシングチューブは搬入出を繰り返し、鉄筋籠は必要時に搬入した。

- ⑥工事数量：杭径φ1,500mm 1本 掘削長22m
杭径φ1,300mm 4本 掘削長22m



マルチドリルによる施工状況

2. おわりに

今回マルチドリル工法の特徴を生かした施工例を紹介したが、本工法の最大の特徴として、全周回転式オールケーシング工法とアースドリル工法が1台の掘削機で併用施工ができるという点があげられる。そのうえ、掘削機が小型であることにより、従来では場所打ち杭の施工が不可とされた現場にも容易に対応できる。マルチドリル工法は、建設工事の多様化と都市再整備開発工事などにおいて、ますます制約されていく施工条件の中、環境に適応し、容易かつ経済的な場所打ち杭の提供を目指す。
(ソイルメックジャパン(株) 永山殖朗)

官公庁関係情報

『休暇改革は「コロンブスの卵」』

～12兆円の経済波及効果と150万人の雇用創出～

●12省庁が「ゆとり休暇」の取得を呼びかけ

平成14年6月25日、閣議決定された「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2002」の中で、休暇の分散化や長期連続化、取得時期の多様化が取り上げられるなど、休暇取得の促進は喫緊の課題になっている中、今般、内閣府、警察庁、総務省、法務省、外務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省の観光対策関係12省庁は、「ゆとり休暇」取得促進のための広報を共同で実施することになった。今後、幅広くPRを行っていくこととしている。

【事業の趣旨】

昨今の経済情勢から、景気浮揚がわが国の大きな課題となっている。景気浮揚のためには個人消費を活性化させることが必要であるが、その点では国民の潜在的ニーズが最も高い観光等レジャー・余暇活動ニーズを、実現・活発化させることが大きなポイントであるといえる。

旅行の一時期集中は、混雑や渋滞による経済活動の低下、自然・文化財・住環境等への負荷増などの問題も引き起こしているが、これらの問題を解消するうえにも、空いている時期に国民の旅行需要を分散シフトさせ、旅行需要を平準化させることも必要である。旅行需要の平準化が進めば、観光関連産業における繁閑激変が緩和され雇用の安定化や繁閑料金格差の縮小・解消、サービス向上が期待できるとともに、交流人口も安定的になり日常的観光交流の促進や、国土の均衡発展も期待できる。

そのためには、欧米先進諸国に比べてきわめて低い年次有給休暇の取得率を高め、「ゆとり休暇」の取得を促進することが有効である。「ゆとり休暇」の取得促進は、観光等レジャー余暇活動の機会の増加や需要の平準化をもたらし、国民の生き甲斐を増加させ、内需を拡大し、雇用拡大にもつながるものとして大いに期待できる。

平成14年6月7日に国土交通省・経済産業省・財団法人自由時間デザイン協会が発表した『休暇改革は「コロンブスの卵」』（休暇制度のあり方と経済社会への影響に関する調査研究委員会報告書）でも、年次有給休暇の完全取得が実現した場合、12兆円の経済波及効果と150万人の雇用創出の効果があることが明らかにされたところである。

そうした中で、これまでの経済財政諮問会議での議論や、平成14年6月25日閣議決定された「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2002」も踏まえて、観光対策関係12省庁は、「ゆとり休暇」取得促進のための広報を実施することになったものである。

詳細は、国土交通省ホームページを参照ください。

●http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/01/010625_3_.html